

共につくる喜び

代田中学校
令和6年10月

生命を考える会(3年) 赤ちゃんふれあい体験



10月7日(月)、3年生を対象に「赤ちゃんふれあい体験」を行いました。多くの赤ちゃんとその保護者の方に参加いただきました。主催する保健センターの保健士さんだけでなく、地域の主任児童委員、民生児童委員の方もお手伝いに来てくださいました。

3年生は、少人数のグループに分かれて体験をしました。はじめのうちは、遠巻きに座っているグループもありました。お母さんやお父さんの話を聞いたり、赤ちゃんを抱っこさせてもらったりしているうちに、だんだんと笑顔が見られるようになりました。赤ちゃんを見つめる目は、本当に優しくかったです。



赤ちゃんふれあい体験の感想(一部抜粋)

・赤ちゃんは、人見知りでたくさん泣いていた。体をそったり、手足を大きく動かしたりしていて、一生懸命泣いている感じだった。赤ちゃんは、すごくもちもちしていて、小さくて軽かった。目を合わせると、笑ってくれてかわいかった。11か月ということで、自分でつかんでパンを食べたり、お水を飲んだりしていたけど、口からボロボロ落ちていた。一口の大きさがまだわかっていないらしい。

・今までは赤ちゃんはすぐ泣くからあまり得意ではないというイメージだったけど、ふれあってみて、泣くことが仕事のようなものであると知り、かわいくて、すごく元気だなということを感じました。自分が親になったときの楽しさ、大変さなどを想像することができるようになりました。



どんな大人になりたいか・中学3年生の今からできること

・子どもを大切にできる大人になりたいと思った。今日のふれあい体験では、おうちの人はすごく優しく、大切にしていたけど、やっぱり世の中にはそうじゃない人もいるから、一つの命を大切にできる人になりたい。今からできることとしては、まず、自分がしっかりと育つことだと思った。自分がしっかりした人間にならないと、他の命なんて守れないと思うから。

・赤ちゃんという繊細な生き物により詳しくなって、子育てをしやすい社会にできるようにしたいなあと思いました。例えば、保育所の設置、子育ての給付金や町で親の方が困っているのを助けられるような社会を目指したいなあと思いました。そのために、今から、今日のようなふれあい体験で知ったことや、町を歩いているときに子育てについて考えることなどをしていきたいなあと思いました。

・赤ちゃんは泣いてばかりだったけど、それでもほうっておかず、気持ちを理解しようとするのが大切だと思った。赤ちゃんとしっかり向き合って、よく考えて関わるのが必要だと感じた。自分の子だったらそうがんばれると思うけど、他の子にも、そういった態度で大切にできる大人になりたい。そのために、まずは同級生の弟から始めていこうと思った。

・やっぱり子どもにとって悪影響になるような心の冷たい人ではなく、良い手本になれる、いい背中を見せられるような心優しい人になりたいと思った。そして、個人を尊重して、互いに思いやりをもてる社会にしていけるために、勉強を頑張ろうと思った。どんな職業についても、社会の役に立てるので、一生懸命やりたいと思った。

・もし、公園などで困っているのを見かけたら、助けたいなあと思いました。今から自立できるように、自分のことは自分でやり、(片付けや自分から起きるなど)大人になっても困らないように、他の人に心配をかけないようにしたいと思いました。子どものことを考えると、自分だけでなく、周りを見なければならぬので、周りを見て行動したいと思いました。

・子どもたちが安全で豊かに生きられるように税金を納めたり、見守ったりしようと思いました。もし、親になったら、優しく、生まれてきて良かったと思えるようにできる親になりたいです。また、今からでも子どもについて学ぶとか、どうしたらもっと良い社会になるかななどを考えるとかもできると思いました。

・私が親になったら、今日来てくれたお家の方々のように、たくさんの愛情を注ぎ、その子の好きな物や、何をしたいかという感情を理解してあげられる人になりたいです。これからたいへんそうなる人を見かけたとき、声をかけて手伝ったり、力になったりしたいと強く思いました。赤ちゃんも親も過ごしやすい環境になったらいいと思いました。

